

深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト成果報告会に参加して

——東京からのオンライン配信を通じて——

大正大学文学部日本文学科助手 岩谷泰之

今回は社会情勢を鑑み、弘前大学・深浦町・大正大学をオンラインで繋いで初のウェブ開催ということでしたが、大正大学にとってもコロナ禍での学術的な講演の配信は初めてのことでした。そうした中で仏教研究の大家でいらつしやる末木文美士先生を本学にお招きすることができたのは、大変嬉しいことでした。

それはひとえに、渡辺麻里子先生が着任されたばかりの大正大学で奔走されたお陰です。その結果、多くの大学職員の力を借りて会場や機材を整えることができました。

事前に行った弘前大学の皆様との接続テストの際には、カメラや照明の位置を入念にチェックし、音声の確認も繰り返し行いました。Zoomの操作にも注意を払い、どのようなタイミングで資料を画面に映すのかも事前にイメージを共有しました。そのため当日は落ち着いて、渡辺先生と共に末木先生をお迎えすることができました。

また弘前大学と同じように、大正大学でも大学名やロゴが入ったインタビュパネルを用意することができました。それを背景に登壇していただくことで、現在どこで講演が行われているのか、視聴者の方々には大変分かりやすかったのではないかと思います。

発表資料は当日、Zoomのチャット機能を使ってアップロードを行いました。但し、今後はDropboxやOneDriveなども視野に入れ、事前に視聴者に配布する方法を検討する必要があるかもしれません。

フォーラムではまず深浦町長・吉田満氏と円覚寺副住職・海浦誠観氏からお話をいただき、渡辺先生からは「深浦円覚寺古典籍保存調査プ

ロジェクトの意義」についてご説明していただきました。そのためこれまでの活動の経緯や、昔の人々が必死に書き残したものを現在に蘇らせようという皆様の想いを知ることができました。

また先生方のご講演を拝聴させていただき、一視聴者としても大変充実した時間を過ごすことができました。

原克昭先生の神道関係資料についてのお話では「御流神道・玉水流」の流れを詳細に知ることができ、明治期における今後のご研究が大変楽しみに思いました。尾崎名津子先生の海浦義観のお話では資料を通じて、義観が明治・大正期にどのような活動をしたのかが生き生きと伝わってきました。

そして末木先生のご講演では、明治政府の宗教政策の中で宗教者がどのように生きたのか、今回は土宜法龍に焦点を当てたお話を聞くことができました。先生のこれまでのご研究から教わった、明治という時代を考える上での宗教の重要性を再確認すると共に、法龍が海外に渡った際のことなどを詳細に知ることができました。

このように近代をテーマとした今回の先生方のご講演を拝聴し、明治政府の政策や諸外国との関係のなかで、大きく変化した日本における宗教の在り方を知るためにも、円覚寺に保存された古典籍資料は大変貴重なものであることが分かりました。今後も円覚寺のことはもとより、近代宗教者たちの実情を知ることができるのを楽しみにしています。

最後になりますが、今後の調査の再開と、資料の文化財指定を心よりお祈りしております。